

SIIA 「ハイブリッド会議」用機材調達の提案

1. ハイブリッド会議の開催決定の経緯

9 月 28 日に開催された第 5 回理事会において、今後の理事会で対面会議に移行した後も引き続きオンライン会議も並行して開催する「ハイブリッド会議」開催するよう、北川理事からあった。

この提案に多くの理事も賛同し、早い時期にハイブリッド会議へ移行を求められた。ハイブリッド化するには費用もかかるが、ICT 業界団体として費用をかけても率先してリードすべきとの意見もあり、北川理事からはビジネス・マッチング部会の磯田部会長に助力を頂けるとの発言もいただいた。

2. 「ハイブリッド会議」用機材の検討

(1) 機材検討

理事会の翌日から、磯田部会長の協力を得てハイブリッド会議開催のための機材の調査を開始した。その結果、YAMAHA 製の「遠隔会議用スピーカーフォン」が、SIIA 理事会用として最適な機能によるシリーズを揃えていることが判明した。(添付資料「YAMAHA YVC-1000」参照)

(2) 「遠隔会議用スピーカーフォン」の選定

YAMAHA 製「遠隔会議用スピーカーフォン」の商品シリーズの中から、20 名程度の会議に最適な機種は、「YVC-1000」(添付資料参照)であり、この機種であれば、将来定時総会のような規模になっても、スピーカーやワイヤレスマイクなどの拡張機能(別売)もあり、当初最小規模で始めても将来機材を入れ替える必要がないなど優れた点が多いことが判った。

(3) 「遠隔会議用スピーカーフォン『YVC-1000』」の検証

YAMAHA では、機材の貸出しサービスがあることが判り、10 月 13 日からの貸出しが可能になったため、10 月 14 日に NTT 西日本様の会議室を借用して磯田部会長に協力をいただき、「YVC-1000」の検証を実施した。

(4) 「YVC-1000」の検証結果

借用した会議室は、SIIA 理事会で通常使用している静岡商工会議所 401 号室と同等のサイズで、そこに YVC-1000 本体(マイク 1 個付き)と拡張マイク 2 個

の計 3 個を理事会のテーブルサイズの上に配置して、「Webex」で模擬会議を行った結果、ハウリングもなく、各席からの発言も手近のマイクを通じてオンライン上でクリアな音声聴き取れた。同様に YVC-1000 内蔵スピーカーから遠隔の音声も会場に流れるため、会場出席者がその音声を聴くことも問題はなかった。併せて機器のセッティングも、ケーブル類の接続をするだけで完了し、サイズもコンパクトのため、搬入～セッティング～解体～搬出作業すべてを 1 名で対応できる点も評価できる(実際問題として、事務局にはこの点が大きなポイントになる)。

(5) 想定される費用

「YVC-1000」一式を導入する場合、別売の「拡張マイク 2 個」も必要になるので、概算で 20 万円(税込み)となる。(添付資料参照)

3. 今後のハイブリッド会議システム運用

(1) SIIAとしてハイブリッド会議開催が適用される会議は下記の通り

- ① 理事会
- ② 会員交流会
- ③ 部会
- ④ セミナー・講習会

(2) その他の適用について

上記各種会合以外に、会員からの要望があれば貸出も可能と思われる(上記 SIIA 主催の会合が優先され、機材の使用予定のない期間のみとなる)。

4. 結論

検証結果と評価ならびに今後の運用の可能性を総合的に判断すると、SIIAが独自に同機器を導入する必要性があると思われる。

またその費用財源については、本年度コロナ禍により予定されていた事業が思うように消化できておらず、各部会の予算にも余剰もみられるので、本年度であれば執行が可能である。

加えて、特に「ビジネス・マッチング部会」では、今後「会員交流会」を開催するにあたり、会場のキャパシティの心配もあり、ハイブリッド開催で多くの会員の皆様に参加いただくことが可能となる点も付言する。

2021 年 10 月 26 日

事務局 桜井俊秀